

都道府県臨床（衛生）検査技師会 会長 各位

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

代表理事会長 官島 喜文

(公印省略)

厚生労働省「いきいき働く医療機関サポートWeb」(いきサポ)の
周知及び登録について(お願い)

謹啓、貴会においては、益々ご清祥のことと存じます。平素は、当会の事業活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、厚生労働省では、医療従事者の勤務環境改善に関する情報を提供する「いきいき働く医療機関サポートWeb」(通称:いきサポ)を平成27年3月27日に開設しました。

これは、医療従事者、患者、経営にとってWIN-WIN-WINとなるような好循環を作るために、表記ウェブサイトを開設し、医療機関の勤務環境改善に関する法令や制度、調査研究、イベント等の各種情報、医療機関の勤務環境改善に関する取組事例などを紹介しています。また、取組事例を投稿や、投稿された取組事例に対するコメントや勤務環境改善に向けた提案を投稿することもでき、勤務環境改善に関する情報や意見交換の場としても活用されています。

今般、この「いきサポ」に好事例として、当会から推奨した3つのタスク・シフト/シェアに関する事例が掲載されました。来年度から施行される医師の働き方改革について、時間的余裕はありません。積極的なタスク・シフト/シェアが望まれており、この事例も推進の一助となればと考えております。今後、当会のホームページに「いきサポ」の常設バナーを設け広報して参ります。

つきましては、各都道府県技師会のホームページにも、常設バナー又はリンクを貼って会員がいつでも閲覧できるよう周知をお願いいたします。

また、「いきサポ」には、事例を投稿する機能もあることから、積極的な投稿について、併せて周知いただきますようお願いいたします。

謹白

記

○厚生労働省「いきいき働く医療機関サポートWeb」(いきサポ)

<http://iryou-kinmukankyuu.mhlw.go.jp/>

○医療機関の勤務環境改善に向けた好事例集

臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアの好事例の紹介

[https://iryou-](https://iryou-kinmukankyuu.mhlw.go.jp/files/Attachment/467/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%94%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E5%8B%A4%E5%8B%99%E7%92%B0%E5%A2%83%E6%94%B9%E5%96%84%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E5%A5%BD%E4%BA%8B%E4%BE%8B%E9%9B%86.pdf)

[kinmukankyuu.mhlw.go.jp/files/Attachment/467/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%94%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E5%8B%A4%E5%8B%99%E7%92%B0%E5%A2%83%E6%94%B9%E5%96%84%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E5%A5%BD%E4%BA%8B%E4%BE%8B%E9%9B%86.pdf](https://iryou-kinmukankyuu.mhlw.go.jp/files/Attachment/467/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%94%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E5%8B%A4%E5%8B%99%E7%92%B0%E5%A2%83%E6%94%B9%E5%96%84%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E5%A5%BD%E4%BA%8B%E4%BE%8B%E9%9B%86.pdf)

【担当連絡先】

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

〒143-0016 東京都大田区大森北4-10-7

TEL 03-3768-4722 FAX 03-3768-6722

Mail jamt@jamt.or.jp

担 当 代表理事副会長 丸田秀夫 事務局 板橋匠美



いきサポとは？

いきいき働く医療機関サポートWebは、医療機関の経営者・管理職の皆さまが、医療従事者が健康で安心して働くことができる職場環境づくりに取り組む際に参考となるさまざまな情報を提供するウェブサイトです。

いきサポでできること

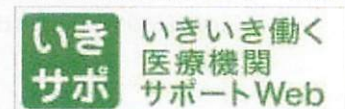
- ✓ 勤務環境改善に役立つ**情報を探す**
国が行っている施策情報、都道府県や関連団体が行っている取組みの情報を紹介しています。
- ✓ 勤務環境改善に役立つ**事例を探す**
医療機関が勤務環境改善に取り組んだ具体的な事例を紹介しています。
- ✓ 医療機関の事例等を**投稿する**
医療機関の勤務環境改善の取組事例や改善手法の提案を投稿することができます。
- ✓ 掲載事例について**意見を交わす**
掲載されている取組み事例に対してコメントでき、意見交換の場としてご利用できます。

取組事例・提案投稿フォームについて

- ・フォームでは、医療機関の勤務環境改善に関する取組事例、医療機関の勤務環境改善に向けた提案を投稿できます。
(<https://iryoku-kinmukankyou.mhlw.go.jp/casestudy/form>)
※「いきサポ 取組事例・提案投稿フォーム」でインターネット検索
- ・投稿された内容の確認を行い掲載します。内容によっては、掲載を差し控えさせていただきます場合があります。詳しくは利用規約をご確認ください。

リンクについて

- ・公序良俗に反するもの、誹謗中傷の存在するもの等、本ウェブサイトの事業や信用が害される可能性があるウェブサイトからのリンク以外は原則として自由とされています。
- ・各ページのURLは予告なく変更や削除をすることがありますので、リンク先はトップページ
(<https://iryoku-kinmukankyou.mhlw.go.jp/>) にするようお願いします。
また、厚生労働省にて右記バナーが用意されておりますので、ご利用ください。



令和4年度厚生労働省委託事業

● 勤務環境改善に向けた ●

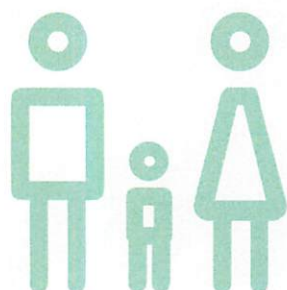
好事例集

令和5年3月

目次



1	はじめに	2
2	医療機関の勤務環境改善の好事例の取組の体系	4
3	勤務環境改善の好事例の紹介	26
4	臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアの好事例の紹介	112
5	索引	119



4. 臨床検査技師へのタスク・シフト/シェアの 好事例の紹介

事例 1

臨床検査技師による静脈路確保関連業務等の タスク・シフト/シェアによる医師の負担軽減 藤田医科大学病院（愛知県豊明市）

1,325床

高度急性期

医師・看護師・他

開設 学校法人 藤田学園

病床数 1,325床

職員数 2,772名（医師631名、看護師1,376名、他）

機能 高度急性期

標榜科 25科

取組前の状況

臨床検査技師による静脈路確保業務の開始

- 救急外来患者の多くは静脈路確保が必要であり、採血は、静脈路確保時に医師や看護師が行うことになっていたが、救急外来の繁忙時は人員不足のため、採血・点滴が遅れることが課題となっていた。
- 臨床検査技師が採血と同時に静脈路確保を行うことで、医師、看護師の負担を軽減、採血検体の質の担保、診療の迅速化と効率化が可能となるのではないかと考え、臨床検査技師による静脈路確保業務開始を目指した。

取組の内容

救急外来診療の問題点改善案を検討

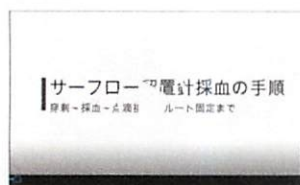
- 2020年、臨床検査部管理者、病院全体へと働きかけ、静脈路確保業務への打診を図った。
- 2021年4月より、静脈路確保業務開始に向けた具体的な取組として、マニュアル、手順動画、研修プログラムの作成等を開始した。
- 2021年7月より、日本臨床検査技師会主催の「臨床検査技師に対するタスクシフティング業務啓発事業」の研修を開始した。
- 2021年10月には、「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律（令和3年法律第49号）」の成立により、臨床検査技師等に関する法律の一部が改正されたことを受け、タスク・シフトに向けた具体的な準備を行った。
- 2021年12月より、救急外来出向技師による静脈路確保業務を開始した。

静脈路確保のマニュアルを作成

- 留置針穿刺等の手順書を作成した。

静脈路確保の手順動画を作成

- 留置針穿刺、採血、点滴、ルート固定までの手順動画を作成した。

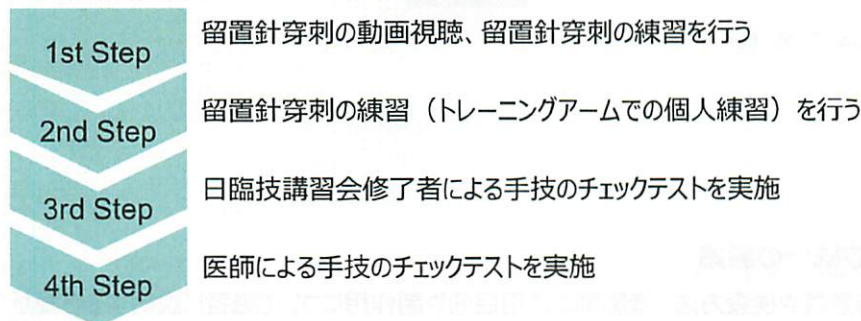


取組の内容

研修プログラムの作成

- 臨床検査技師による静脈路確保業務に向け、研修プログラムを作成し、静脈留置針穿刺研修を実施した。

<研修のステップ>



静脈留置針穿刺研修

研修番号: _____

名称: _____

STEP 1

研修内容	実施日	研修員
1. 留置針穿刺の動画視聴		
2. 留置針穿刺の練習（日臨技講習会終了後に実施する）		

STEP 2
留置針穿刺の練習（静脈留置針トレーニングアームでの個人練習）

STEP 3
手技確認（日臨技講習会終了後）
*評価が「可」となった時点で評価日を記載して下さい。

研修内容	評価	評価日
1. 物品（サーフロー、透視鏡、ネジゲージ、シリッジ）の手洗い		
2. 位置の確認ができていますか？		
3. 穿刺が手際よく行われていますか？		
4. サーフローからシリンジの取換ができていますか？		
5. ムートの確認、固定ができていますか？		

STEP 4 研修評価（医師）
*評価が「可」となった時点で評価日を記載して下さい。

研修内容	評価	評価日
1. 物品（サーフロー、透視鏡、ネジゲージ、シリッジ）の手洗い		
2. 位置の確認ができていますか？		
3. 穿刺が手際よく行われていますか？		
4. サーフローからシリンジの取換ができていますか？		
5. ムートの確認、固定ができていますか？		

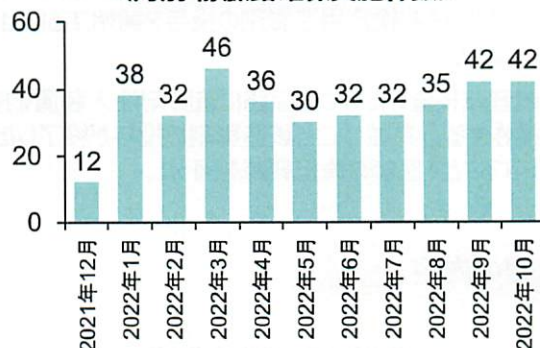
最終評価者: _____

取組の効果

静脈路確保業務の実施

- 2021年12月から臨床検査技師による静脈路確保業務を開始した。
- 2021年12月から2022年10月にかけて、臨床検査技師による静脈路確保は、年間377件実施した。

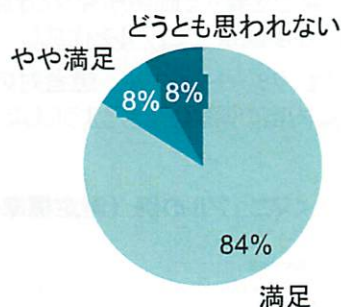
<月別 静脈路確保実施件数>



医師・看護師等の負担軽減

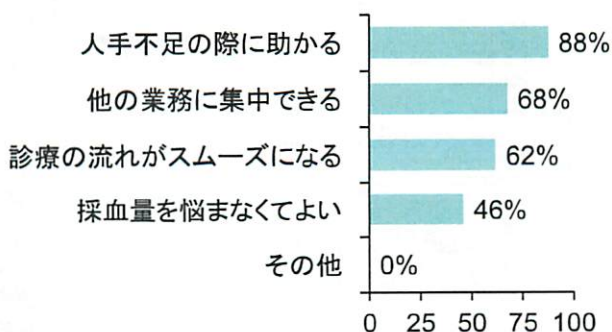
- 救急外来にて業務を行う医師15名、研修医5名、看護師30名に対してアンケートを実施したところ、臨床検査技師が静脈路確保を行っていることに対して、**92%**が「満足」または「やや満足」と回答した。

<臨床検査技師による静脈路確保に対してどう感じるか>



- 臨床検査技師による静脈路確保に満足している理由として、「**人手不足の際に助かる**」が最も多く、88%の方が回答した。次いで、「**他の業務に集中できる**」、「診療の流れがスムーズになる」との回答であった。
- アンケートを通じて、臨床検査技師が静脈路確保を行うことにより、以下の効果が得られていることがわかった。
 - 医師、看護師の負担軽減
 - 診療の効率化
 - 再採血の減少による患者負担の減少
 - 検体の質向上による迅速な結果報告

<臨床検査技師による静脈路確保に満足している点>



事例 2

臨床検査技師による超音波検査関連業務等のタスク・シフト/シェアによる医師の負担軽減

社会福祉法人 恩賜財団 済生会松阪総合病院（三重県松阪市）

430床

急性期

医師・看護師・他

開設 社会福祉法人 恩賜財団 済生会

機能 急性期

病床数 430床

標榜科 30科

職員数 698名（医師90名、看護師431名、他）

取組前の状況

造影超音波検査における手順の統一の開始

- 医師は造影超音波検査の臨床的意義や検査方法、造影剤の使用目的や副作用について患者に説明する必要があり、説明後には検査の同意書をとる必要があった。
- 国内では臨床検査技師等による注射剤調製に関するガイドラインや指針等は整備されておらず、臨床検査技師等による超音波検査用造影剤の投与を開始するに当たり、造影剤調製についてのマニュアルを作成し、手順の統一を目指した。
- 超音波検査のために静脈路に造影剤注入装置を接続する行為、造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為並びに当該造影剤の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為を臨床検査技師等にタスク・シフトすることで医師の負担軽減を図った。

取組の内容

各種マニュアルの作成

- 測定方法、緊急を要する画像所見などを記載した測定標準作業書、造影剤投与後の注意事項、TO DOをまとめた造影剤投与後観察マニュアルを作成し、手順の統一を図った。
- 業務習得チェックシートを作成し、患者対応、検査、その他操作（物品の準備、備品・機器の点検等）、電子カルテなどの作業内容の確認ができるようにした。

＜マニュアルの例（測定標準作業書）＞



＜造影超音波業務習得チェックシート＞



取組の内容

造影超音波検査の同意書の確認

- 造影超音波検査実施時に、臨床検査技師等が検査前に投与患者の同意書を確認することで、検査に当たる同意書の受理手続きに係る医師の業務負担を軽減した。

造影剤の調製のタスク・シフト

- 臨床検査技師等による超音波検査用造影剤の投与を開始するに当たり、調製環境の整備、清潔操作、調製後の造影剤の衛生的管理等についてマニュアルを作成し、手順の統一を行うことで、臨床検査技師等への造影剤調整のタスク・シフトを行った。

静脈穿刺

- 臨床検査技師による静脈穿刺を実施する。
- 患者さんによっては非常に血管確保が困難の場合があるので、その場合は看護師の協力を得ることとする。

造影剤投与及び超音波検査の実施

- 臨床検査技師等が造影超音波検査のマニュアルとプロトコルに準じて検査を実施する。
- 検査後は適切な画像保存（静止画・動画）と検査依頼医師に対する的確なレポートを作成することで情報共有を行う。
- 造影超音波検査副作用確認用紙を設けて、造影剤投与回数、投与直後・検査中・検査終了時の患者の状態を記録する。

<造影超音波検査副作用確認用紙>

造影超音波検査副作用確認用紙	
投与回数	① 1回目 ② 2回目 ③ 3回目 ④ 4回目（投与回数時に○をつける）
ID: _____	患者氏名: _____ 依頼医: _____
検査日: _____年____月____日	造影開始時間: _____時____分
○造影剤投与直後	異常: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
<input type="checkbox"/> 穿刺部違和感	<input type="checkbox"/> 疼痛 <input type="checkbox"/> 皮膚発赤 <input type="checkbox"/> 腫脹 <input type="checkbox"/> しびれ感
<input type="checkbox"/> 発汗	<input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> 満腹感 <input type="checkbox"/> その他 _____
	実施者: _____
○造影剤投与後検査中	異常: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
<input type="checkbox"/> 穿刺部違和感	<input type="checkbox"/> 疼痛 <input type="checkbox"/> 皮膚発赤 <input type="checkbox"/> 腫脹 <input type="checkbox"/> しびれ感
<input type="checkbox"/> 発汗	<input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> 満腹感 <input type="checkbox"/> その他 _____
	実施者: _____
○検査終了時	異常: <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
<input type="checkbox"/> 穿刺部違和感	<input type="checkbox"/> 疼痛 <input type="checkbox"/> 皮膚発赤 <input type="checkbox"/> 腫脹 <input type="checkbox"/> しびれ感
<input type="checkbox"/> 発汗	<input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> 満腹感 <input type="checkbox"/> その他 _____
	実施者: _____
○総合評価	<input type="checkbox"/> 終了まで異常認められず経過 <input type="checkbox"/> 異常あり
	実施者: _____ 記録時間: _____時____分
	作成 2022.2 生理検査室

取組の効果

造影超音波検査のタスク・シフトによる医師の負担軽減

- 造影超音波検査の一連の流れをマニュアル化し、臨床検査技師等にタスク・シフトさせることで、医師の負担軽減に寄与させた。

事例
3

臨床検査技師による肛門内圧検査関連業務等の タスク・シフト/シェアによる医師の負担軽減

独立行政法人 地域医療機能推進機構
四日市羽津医療センター（三重県四日市市）

226床

急性期

医師・看護師・他

開設 独立行政法人 地域医療機能推進機構

機能 急性期

病床数 226床

標榜科 21科

職員数 488名（医師50名、看護師226名、他）

取組前の状況

患者数の増加による医師の負担増加

- ・ 当院では大腸肛門病センターを併設しており、患者数及び診察時間が増加したことから、医師からの要望で2007年から臨床検査技師が肛門内圧検査介助を実施していた。
- ・ 法改正により2021年から臨床検査技師が肛門内圧検査を実施できるようになり、診察時間の確保と医師の業務負担を減少させるために、臨床検査技師が実施することとした。

取組の内容

肛門内圧検査実施までのトレーニングの実施

- ・ 臨床検査技師が肛門内圧検査を実施するにあたり、検査マニュアルを作成し、定期的に見直しをかけている。
- ・ チェックリストを設け、担当前に検査手技及び検査に対する理解度のチェックを実施してから業務にあたるようにしている。
- ・ 認定制度は特に設けていないが、検査の意義・検査の解釈、測定の方法、検査見学の経験、サポート付の検査実施経験等に係るチェックリストを満たしてから業務を行っている。
- ・ 現在、タスク・シフト/シェアの講習会を終えた臨床検査技師4名（男性2名、女性2名）が携わっている。

<マニュアル>

肛門内圧センサー取組手順書

作成日：2015年09月03日
改定日：2016年07月21日

1. 中位感測器を使用し、ボーンで肛門センサーを挿入。
2. 中位感測器も使用せず。
3. デュアルモードにてセンサーを消毒。（目安）
 - ・ 検体設置室内で実施
 - ・ 検体設置室内で実施する
 - ・ 検体設置室内に設置した状態で実施する。
4. 検体設置室内で実施する。（検体設置室内）
5. ボーンで検体設置室内を拭き取る。

◎ 備考

- ・ 器具使用は不可
- ・ デュアルモード使用は不可
- ・ 消毒後、必ず乾燥させて置く。
- ・ デュアルモードが停止した状態で消毒を実施する。
- ・ デュアルモード（検体設置室内）センサー検体設置室内に設置する。
- ・ 検体設置室内は、消毒後にセンサーを設置する。

<理解度チェック>

臨床検査技師による肛門内圧検査理解度チェック

担当：臨床検査技師

目的：臨床検査技師が肛門内圧検査を実施するにあたり、検査手技及び検査に対する理解度をチェックする。

対象：臨床検査技師

実施場所：臨床検査技師

実施時期：臨床検査技師

実施回数：臨床検査技師

実施者：臨床検査技師

実施場所：臨床検査技師

実施時期：臨床検査技師

実施回数：臨床検査技師

実施者：臨床検査技師

<チェックシート>

バイオフィードバックチェックシート

氏名

項目	評価	コメント
専用のトランスドゥーサーに接続して行う		
モニタリングを行う		
検体の消毒を行う		
検体、検体の設置ができる		
臨床検査技師によるセンサーの消毒ができる		
目標値を達成する練習ができる		
バイオフィードバックによる練習ができる		
サポート付きで検体の設置を行う		
結果報告ができる		

【コメント】

取組の内容

肛門内圧検査介助開始から検査実施までの実績

- 診療時間確保及び医師の業務負担軽減に向け、臨床検査技師が検査準備、肛門静止圧・随意圧測定、直腸肛門反射測定、結果入力等の肛門内圧検査を実施するようになった。

時期	臨床検査技師による実績
2007年～	肛門内圧検査介助を開始した。
2021年11月～	医師の指導の下、臨床検査技師で肛門内圧検査を実施した。
2021年11月～ 2022年11月	1年間で91件（月平均7.6件）の肛門内圧検査を実施した。

	曜日				
	月	火	水	木	金
診療時間	13:30～ 14:30～ 15:30～	14:00～ 15:30～	14:00～ 15:30～	13:30～ 14:30～ 15:30～	14:00～ 15:30～
備考	<ul style="list-style-type: none"> 検査時間は、各1時間である。 女性患者は女性技師が担当し、男性患者は、男性技師が担当している。 				

取組の効果

医師の業務負担軽減

- 医師に代わり、臨床検査技師が肛門内圧検査を実施することによって、患者1人当たり30～40分の負担軽減につながっている。